

住民説明会での主な意見等の要旨

※本検討委員会での議論に関係すると考えられる意見等を抜粋

上越市3会場分

1. 再編全般について

- ① 再編も含めた地域医療提供体制の検討にあたって、患者や地域住民の意見を入れるべきではないか。
- ② 患者にとって負担となる転院を前提とした地域完結型の医療提供体制ではなく、病院完結型にすべきではないか。
- ③ どの病院にとっても、経営上の不利益が生じないような再編になるよう、検討を進めるべきではないか。
- ④ 新中核病院・新地ケア病院で行うこととしている一体的運営は、2病院だけでなく、地域全体でも考えるべきではないか。

2. 新中核病院・新地ケア病院について

- ① 現状の急性期2病院体制で役割分担は行われ、圏域外への救急搬送も少なく、うまくいっており、再編する必要はないのではないか。
- ② 外来での待ち時間が長いことや災害時対応など考慮し、急性期は2病院体制を維持するべきではないか。
- ③ 地域全体でのベッドコントロールは、すぐにやるべきであり、それをせずに2病院の一体的運営を行うというのは飛躍しすぎているのではないか。
- ④ 一体的運営の必要性について、機能分化にともなう経営への影響を理由に挙げているが、診療報酬改定なども踏まえると、それほど大きな影響はないのではないか。
- ⑤ 一体的運営の手法の一つとして例示されている「地域医療連携推進法人」が病院間の損益調整を行うのは、困難なのではないか。
- ⑥ 一体的運営にあたり、県立中央病院の運営形態が変わるのであれば退職や異動等を考えているという声も考慮して検討を進めるべきではないか。
- ⑦ 一体的運営について、医師派遣元の大学の考えをよく聞く必要があるのではないか。
- ⑧ 周辺病院に派遣できるだけの医師を、本当に新中核病院に集めることができるのか。
- ⑨ 県立中央病院と上越総合病院という経営母体異なる病院の一体的運営にあたり、プライドの高い医師が協調してやっていけるのか。
- ⑩ 急性期機能の集約・機能分化により、異なる大学から派遣された医師が一つの病院に集約されることとなるが、そうした状況でも医師がうまく仕事できるような環境づくりが必要ではないか。併せて、地元出身の医師が戻ってきやすい仕組みが必要ではないか。

糸魚川市 3 会場分

1. 再編全般について

- ① 上越医療圏域内に高度機能の病院を確実に残すことができるよう、県と市で協力して、再編を早期に実現するべきではないか。
- ② 糸魚川市は 3 次救急病院まで 50km 程度あり、厳しい地域特性があることから、他県との連携も視野に入れて考えるべきではないか。

2. 新中核病院・新地ケア病院について

- ① 県立中央病院と上越総合病院が一体的運営となるにあたり、異なる組織の人たちが積極的に課題を解決していけるような仕組みが必要なのではないか。
- ② 新中核病院と新地ケア病院の間で、医師だけでなく、看護師や事務、リハビリ、栄養士、療法士、技師などの職種も派遣を行うべきではないか。
- ③ 糸魚川総合病院から透析の常勤医が不在となり、上越総合病院から派遣されるようになったことで、更生医療が適用されなくなり、患者負担が増加している。今後、新中核病院から糸魚川総合病院へのサテライト派遣を行う場合、治療を受ける病院の違いで負担の差が生じることがないように、また短期間で頻繁に医師が変わることのないよう、派遣方法を検討する必要があるのではないか。
- ④ 糸魚川総合病院の医療機能が低下しないよう、新中核病院からの医師や看護師の派遣が確実になされる仕組みを検討する必要があるのではないか。

妙高市 3 会場分

1. 再編全般について

- ① 地域住民が必要とする医療を圏域内で完結できるような対応も含めて医療再編を進めるべきではないか。
- ② 県境を越えた受診など、他県と連携した医療提供も考えられるが、地域で必要な医療は圏域内で完結していくべきではないか。
- ③ 再編により医療機能の分化が進むと、病院間の転院搬送も増加すると考えられることから、搬送手段について、救急車による搬送以外にも、民間救急や福祉・介護タクシーとの役割分担や連携を進めるべきではないか。
- ④ 地域医療を維持するため、国はさらなる支援を行うべきではないか。

2. 新中核病院・新地ケア病院について

- ① 新中核病院と新地ケア病院の一体的運営のためには、運営を担う組織やマネジメント体制の検討が必要なのではないか。
- ② 新中核病院・新地ケア病院の具体的な診療科を早期に示すべきではないか。
- ③ 地域で必要な医療を維持するため、関東や大阪などの都市部も含めて幅広く医師を確保するなど、医療従事者の確保に取り組むべきではないか。